

2022年度 カリキュラムマップ（基礎科目）

1. 社会生活に必要な知識を理解できる。(知識)
2. 社会生活に必要な技術・技能を身につけている。(技能)
3. 社会における課題を、演習・体験を通して考察することができる。(思考力)
4. 自らの経験、他者の考察を振り返り、自分の考えを確立できる。(判断力)
5. 確立した考えを自分の言葉、文章で表現できる。(表現力)
6. 自分自身の生き方を認め、積極的に社会に関わろうとする力を身につけている。(主体性)
7. 関係性の中で生きる汎用的な能力・態度・共感力を身につけている。(多様性)
8. 他者の生き方に共感し、協力しながら社会を作り上げていく力を身につけている。(協働性)

	1	2	3	4	5	6	7	8
人間学Ⅰ・A				○	○	◎	○	
人間学Ⅱ・B				○	○	◎	○	
人間学Ⅲ				○	○	◎	○	
人間学Ⅳ				○	○	◎	○	
自己との出会いⅠ					○	○	◎	○
自己との出会いⅡ					○	○	◎	○
人権論					○	◎	○	
仏教の歴史と文化						○	◎	○
親鸞入門Ⅰ						○	◎	○
親鸞入門Ⅱ						○	◎	○
キャリアデザインⅠ	○		◎		○	○		
キャリアデザインⅡ	○			◎	○	○		
キャリアデザイン SDGs			◎				○	○
グローバル・キャリア論			◎			○	○	
おおたにの学びⅠ		○	◎		○			○
おおたにの学びⅡ		○	◎		○			○
簿記	○	◎						
心理学	◎	○		○				
倫理学	◎	○		○				
社会学	◎	○		○				
情報処理Ⅰ	○	◎						
情報処理Ⅱ	○	◎						
華道Ⅰ	○	◎						
華道Ⅱ	○	◎						
華道Ⅲ	○	◎						
華道Ⅳ	○	◎						
英語Ⅰ	◎	○					○	
英語Ⅱ	◎	○					○	
英語Ⅲ	◎	○					○	
英語Ⅳ	◎	○					○	
保健体育	○	◎	○	○				
体育実技		◎				○	○	○

2022年度 カリキュラムマップ (仏教学科)

1. 浄土真宗の基本的な聖教、および釈尊、親鸞について理解できる。(知識)
2. 声明作法などの学びを通して、浄土真宗に関する基本的な作法を身につけている。(技能)
3. 自分で聖教を読むことができ、自らの課題を発見することができる。(思考力)
4. 様々な文献を読んで、自らの課題を深めていくことができる。(判断力)
5. 自らの課題を論文や発表、法話という形で表現することができる。(表現力)
6. 現代社会の学びを通して、積極的に社会に関わろうとする力を身につけている。(主体性)
7. グリーフ(悲歎)や看取りなどの学びを通して、自己と他者への共感力を身につけている。(多様性)
8. 他者との協働作業を通して、共に生きる姿勢を身につけている。(協働性)

	1	2	3	4	5	6	7	8
真宗学概説Ⅰ	◎		○	○	○			
真宗学概説Ⅱ	◎		○	○	○			
教行信証概説Ⅰ	◎		○	○	○			
教行信証概説Ⅱ	◎		○	○	○			
真宗基礎学	◎		○	○				
真宗学Ⅰ	◎		○	○				
真宗学Ⅱ	◎		○	○				
真宗学Ⅲ	◎		○	○				
真宗学Ⅳ	◎		○	○				
真宗学Ⅴ	◎		○	○				
真宗聖教講読Ⅰ	○		◎	○	○			
真宗聖教講読Ⅱ	○		◎	○	○			
真宗聖教講読Ⅲ	○		○	○	◎			
真宗聖教講読Ⅳ	○		○	○	◎			
教行信証講義Ⅰ	○		○	◎	○			
教行信証講義Ⅱ	○		○	◎	○			
仏教学概説Ⅰ	◎		○	○	○			
仏教学概説Ⅱ	◎		○	○	○			
仏教基礎学	◎		○	○				
仏典講読Ⅰ	○		◎	○				
仏典講読Ⅱ	○		◎	○				
仏典講読Ⅲ	○		◎	○				
仏典講読Ⅳ	○		◎	○				
仏典講読Ⅴ	○		◎	○				
真宗史Ⅰ	○		○	○	◎			
真宗史Ⅱ	○		○	○	◎			
人権論Ⅱ					○	◎	○	
宗教法規	○			○	○	◎		
宗教学	○			○	○	◎		
声明作法Ⅰ		◎					○	○
声明作法Ⅱ		◎					○	○
声明作法Ⅲ		◎					○	○
声明作法Ⅳ		◎					○	○
真宗と社会					○	◎	○	
教化学実習Ⅰ		○			○			◎
教化学実習Ⅱ		○			○			◎
教化学実習Ⅲ		○			○			◎
教化学実習Ⅳ		○			○			◎
教化学演習Ⅰ				○	◎	○	○	
教化学演習Ⅱ				○	◎	○	○	
課題研究Ⅰ	○		○	○	◎			
課題研究Ⅱ	○		○	○	◎			
卒業論文	○		○	○	◎			

2022年度 カリキュラムマップ（表現学科演劇放送フィールド）

1. 表現者に必要な知識を習得し、自らの表現性について理解できる。(知識)
2. 表現者として技能を身につけ、自らの課題を発見し取り組むことができる。(技能)
3. 演劇の学びを通して、他に共感し、場をつくり関わるができる。(思考力)
4. 役割を認識し、課題解決に向け、場に適した判断ができる。(判断力)
5. 人間の内にある思考や感情を省察し、適切に表現することができる。(表現力)
6. 自己を肯定し積極的に表現することができる。(主体性)
7. 演劇を通して深い人間理解を持ち、人の思いや価値観を受けとめることができる。(多様性)
8. 他者と協働しながら、場を動かすことができる。(協働性)

	1	2	3	4	5	6	7	8
マナー実践Ⅰ	○	○		◎				
マナー実践Ⅱ	○	○		◎				
インターンシップリテラシー			◎		○	○		○
インターンシップ			◎		○	○		○
ビジネス実務Ⅰ	○	◎	○		○			
ビジネス実務Ⅱ	○	◎	○		○			
日本語表現法Ⅰ	○	○	○		◎	○		
日本語表現法Ⅱ	○	○	○		◎	○		
表現研究Ⅰ	○	◎			○	○		
表現研究Ⅱ		○	◎		○	○		
表現研究Ⅲ		○	○	◎	○	○		
表現研究Ⅳ		○		○	◎	○		
身体表現研究A-Ⅰ		○	○		○	◎		
身体表現研究A-Ⅱ		○	○		○	◎		
身体表現研究A-Ⅲ		○	○		○	◎		
身体表現研究A-Ⅳ		○	○		○	◎		
身体表現研究B-Ⅰ		○	○		○	◎		
身体表現研究B-Ⅱ		○	○		○	◎		
身体表現研究B-Ⅲ		○	○		○	◎		
身体表現研究B-Ⅳ		○	○		○	◎		
身体表現研究C-Ⅰ		◎	○		○	○		
身体表現研究C-Ⅱ		◎	○		○	○		
身体表現研究C-Ⅲ		◎	○		○	○		
身体表現研究C-Ⅳ		◎	○		○	○		
身体表現研究D-Ⅰ		◎	○		○	○		
身体表現研究D-Ⅱ		◎	○		○	○		
身体表現研究D-Ⅲ		◎	○		○	○		
身体表現研究D-Ⅳ		◎	○		○	○		
身体表現研究E-Ⅰ		◎	○		○	○		
身体表現研究E-Ⅱ		◎	○		○	○		
伝統芸能研究A-Ⅰ	○	◎	○		○			
伝統芸能研究A-Ⅱ	○	◎	○		○			
音声表現研究A-Ⅰ		◎			○	○		○
音声表現研究A-Ⅱ		◎			○	○		○
音声表現研究A-Ⅲ		◎			○	○		○
音声表現研究A-Ⅳ		◎			○	○		○
音声表現研究B-Ⅰ		◎	○		○			○
音声表現研究B-Ⅱ		◎	○		○			○
音声表現研究B-Ⅲ		◎	○		○			○
音声表現研究B-Ⅳ		◎	○		○			○
歌唱表現法Ⅰ		○		○	◎	○		
歌唱表現法Ⅱ		○		○	◎	○		
ミュージカル研究Ⅰ		○		○	◎	○		
ミュージカル研究Ⅱ		○		○	◎	○		
ミュージカル研究Ⅲ		○		○	◎	○		
ミュージカル研究Ⅳ		○		○	◎	○		

	1	2	3	4	5	6	7	8
舞台演習Ⅰ	◎	○	○					○
舞台演習Ⅱ		○	○	◎				○
舞台技術Ⅰ		◎	○	○				○
舞台技術Ⅱ		◎	○	○				○
音響基礎Ⅰ	◎	○				○		○
音響基礎Ⅱ	◎	○				○		○
音響技術Ⅰ		◎		○	○			○
音響技術Ⅱ		◎		○	○			○
照明基礎Ⅰ	◎	○				○		○
照明基礎Ⅱ	◎	○				○		○
照明技術Ⅰ		◎		○	○			○
照明技術Ⅱ		◎		○	○			○
舞台機構演習		○	◎	○				○
表現基礎		○	◎	○				○
舞台表現法Ⅰ		○	○	○	◎			
舞台表現法Ⅱ		○	○	○	◎			
シアターコミュニケーション論Ⅰ	○		○				◎	○
シアターコミュニケーション論Ⅱ	○		○				◎	○
表現技法A-Ⅰ		○		○	○	◎		
表現技法A-Ⅱ		○		○	○	◎		
表現技法B-Ⅰ		○		○	○	◎		
表現技法B-Ⅱ		○		○	○	◎		
表現技法C-Ⅰ		○		○	○	◎		
表現技法C-Ⅱ		○		○	○	◎		
表現技法D-Ⅰ		○		○	○	◎		
表現技法D-Ⅱ		○		○	○	◎		
音声表現法Ⅰ		◎	○			○		○
音声表現法Ⅱ		◎	○			○		○
舞台演習基礎Ⅰ			○	○			◎	○
舞台演習基礎Ⅱ			○	○			◎	○
舞台演習基礎Ⅲ			○	○			◎	○
舞台演習発展Ⅰ			◎	○			○	○
舞台演習発展Ⅱ			◎	○			○	○
舞台演習発展Ⅲ			◎	○			○	○
舞台総合Ⅰ					○	◎	○	○
舞台総合Ⅱ					○	◎	○	○
舞台総合Ⅲ					○	◎	○	◎
舞台総合Ⅳ					○	◎	○	◎
作家作品研究Ⅰ	◎		○		○		○	
作家作品研究Ⅱ	◎		○		○		○	
読書と豊かな人間性		○	◎		○		○	
基礎演習Ⅰ				○		○	○	◎
基礎演習Ⅱ				○		○	○	◎
卒業研究Ⅰ			◎			○	○	○
卒業研究Ⅱ				◎		○	○	○

2022年度 カリキュラムマップ（表現学科情報司書フィールド）

1. 司書に必要な知識を習得し、自らの表現性について理解できる。(知識)
2. 司書として技能を身につけ、自らの課題を発見することができる。(技能)
3. コミュニケーションを活かし、人に寄り添い、共感することができる。(思考力)
4. 役割を認識し、課題解決に向け、場に適した判断ができる。(判断力)
5. 人間の内にある思考や感情を省察し、適切に表現することができる。(表現力)
6. 自己を肯定し積極的に表現することができる。(主体性)
7. 表現教育を通して深い人間理解を持ち、人の思いや価値観を受けとめることができる。(多様性)
8. 他者と協働しながら、場を動かすことができる。(協働性)

	1	2	3	4	5	6	7	8
マナー実践Ⅰ	○	○		◎				
マナー実践Ⅱ	○	○		◎				
インターンシップリテラシー			◎		○	○		○
インターンシップ			◎		○	○		○
ビジネス実務Ⅰ	○	◎	○		○			
ビジネス実務Ⅱ	○	◎	○		○			
ビジネス情報Ⅰ		◎	○	○	○			
ビジネス情報Ⅱ		◎	○	○	○			
日本語表現法Ⅰ			○		◎	○		○
日本語表現法Ⅱ			○		◎	○		○
日本語概説	◎		○		○	○		
表現研究Ⅰ			○	○	◎	○		
表現研究Ⅱ		○			◎	○	○	
表現研究Ⅲ	○	◎			○	○		
文学概論	◎				○	○	○	
作家作品研究Ⅰ	○		○		◎		○	
小説論	○		◎		○		○	
読書と豊かな人間性		○	◎		○		○	
コミュニケーション論					○	○	○	◎
情報学概説	○	◎	○	○				
情報メディア論	○	◎	○	○				
情報ネットワーク演習	○	◎	○	○				
情報資源組織論	◎	○	○	○				
情報文化史	◎	○	○				○	
地域情報特論	◎	○	○				○	
情報機器論	○	○			◎	○		
福祉コミュニケーション			○			○	◎	○
生涯学習概論	○	○					◎	○
図書館情報学概論	◎	○	○	○				
図書館制度・経営論	◎	○		○				○
図書館情報技術論	○	◎	○	○				
図書館サービス概論	◎	○				○	○	
児童サービス論	○	◎				○	○	

	1	2	3	4	5	6	7	8
情報サービス論	◎	○	○	○				
レファレンスサービス演習	○	○		◎		○		
情報資源組織演習Ⅰ	○	◎	○	○				
情報資源組織演習Ⅱ	○	◎	○	○				
図書館情報資源概論	◎	○		○	○			
学校図書館概論	◎	○	○	○				
学校図書館サービス論	◎	○		○		○		
学校教育論	◎	○		○			○	
学習指導と学校図書館	◎	○	○			○		
絵本論		○	○		◎		○	
プレゼンテーション		○		◎	○	○		
図書館実習		○				○	◎	○
基礎演習Ⅰ			○	○	○	◎		
基礎演習Ⅱ			○	○	○	◎		
卒業研究Ⅰ			○	○	○	◎		
卒業研究Ⅱ			○	○	○	◎		

2022年度 カリキュラムマップ（幼児教育学科）

1. 保育・幼児教育の本質、目的、支援の対象者について理解することができる。（知識）
 2. 保育・幼児教育に必要な基礎的技能を習得し、実践につなげることができる。（技能）
 3. 自己の課題を客観的に見出し、学び続けることができる。（思考力）
 4. 社会における保育の課題を知り、問題点を解決することができる。（判断力）
 5. 豊かな感性をみにつけ表現することができる。（表現力）
 6. 個々の関心に基づく得意分野を持ち、保育・幼児教育の実践に活かすことができる。（主体性）
 7. 子どもの自由な表現を受けとめることができる。（多様性）
 8. 他者と協働する力を持ち、その力を遊びを通して地域社会で活かすことができる。（協働性）
- ※保育心理…特別な支援を必要とする児童に寄り添うための知識と技能を身につけることができる。

	1	2	3	4	5	6	7	8	※
子どもと健康	◎	○	○	○					
子どもと人間関係	◎	○	○					○	
子どもと環境	◎	○							
子どもと言葉	◎	○	○	○					
子どもと表現	◎	○			○		○		
保育内容の理解と方法Ⅰ	○	◎	○		○				
保育内容の理解と方法Ⅱ			○		◎	○	○		
保育内容の理解と方法Ⅲ					○	◎	○	○	
保育内容の理解と方法Ⅳ		○	○		◎		○		
音楽表現技術		◎			○	○	○		
音楽実技Ⅰ		◎	○		○	○			
音楽実技Ⅱ		○	○		◎	○			
音楽実技Ⅲ		○	○		◎	○			
こども音楽療育	◎	○			○		○		
造形表現技術		◎			○		○	○	
身体表現技術		◎			○	○	○		
保育者論	◎		○	○		○			
教育原理	◎		○	○					
保育の心理学	◎	○							
子ども家庭支援の心理学	◎	○		○					
子どもの理解と援助	○	◎					○		
教育・保育課程論	◎	○	○						
保育内容総論	○			○			○	◎	
保育内容・健康		◎			○	○	○		
保育内容・環境	○	○	○					◎	
保育内容・人間関係	○	◎	○					○	
保育内容・言葉	○	◎	○				○		
保育内容・表現（音楽）		◎			○	○	○		
保育内容・表現（造形）		◎			○	○	○		
教育方法論	◎		○	○					
子育て支援	○	◎		○				○	○
子ども理解と教育相談	◎		○	○					
臨床心理学（特講）	○		○						◎

	1	2	3	4	5	6	7	8	※
保育探求				○		◎	○	○	
教育・保育実践演習		○	◎	○		○			
教育実習指導Ⅰ	○		○	◎			○		
教育実習指導Ⅱ	○		○	◎					
教育実習Ⅰ	○		○			◎	○		
教育実習Ⅱ	○		○			◎			
乳児保育Ⅰ	◎	○	○	○					
乳児保育Ⅱ	○	◎	○	○					
子どもの保健	◎		○	○					○
子どもの健康と安全	○	◎		○					
子どもの食と栄養Ⅰ	○	◎	○	○					
子どもの食と栄養Ⅱ	○	◎	○	○					
保育原理	◎		○	○		○			
社会福祉	◎			○					
子ども家庭支援論	◎	○		○				○	
子ども家庭福祉	◎			○					
社会的養護Ⅰ	◎	○		○					
社会的養護Ⅱ	○	◎		○					
特別支援の理解	○	◎		○			○		○
障害児保育	○	◎		○				○	
保育心理演習		○					○		◎
保育心理			○		○				◎
保育人間学	○		○	○					◎
保育実習Ⅰ（保育所）	◎	○	○						
保育実習Ⅰ（施設）		○	○			◎	○		
保育実習Ⅱ			○			◎	○	○	
個別支援実習			○			○		○	◎
実習基礎演習	○	○	◎			○			
実習基礎指導	○	○	◎			○			
保育実習指導Ⅰ（保育所）	○		◎	○					
保育実習指導Ⅰ（施設）		○	○	◎				○	
保育実習指導Ⅱ		○	○	◎		○			
個別支援実習指導			○				○		◎

2022年度 カリキュラムマップ (福祉学科)

1. 介護福祉士として必要な知識を理解することができる。(知識)
2. 介護の技術を学び、実践することができる。(技能)
3. 相手にとって何が最善の利益かを考え、自身に問うことができる。(思考力)
4. 常に変化する状況下において、適時判断することができる。(判断力)
5. 支援の学びを通し人の内にある思い、感情を表現することができる(表現力)
6. 対人支援を促進する地域のリーダーとして自覚をもって動くことができる。(主体性)
7. 相手の考えや価値観を受け止めることができる。(多様性)
8. 地域の社会資源や多職種と連携し支援をすることができる。(協働性)

	1	2	3	4	5	6	7	8
生活と倫理	○		○				○	◎
カウンセリングⅠ		◎	○		○		○	
カウンセリングⅡ		◎	○		○		○	
生活と福祉Ⅰ	◎					○		○
生活と福祉Ⅱ	◎					○		○
仏教の人間観Ⅰ			◎				○	
仏教の人間観Ⅱ			◎				○	
認識論			○			◎	○	
介護の基本Ⅰ	◎		○	○				
介護の基本Ⅱ	◎		○	○				○
介護の基本Ⅲ	◎			○				○
介護の基本Ⅳ	◎			○				○
介護と福祉	◎		○			○		○
介護と相談援助		○		○		◎	○	
コミュニケーション技術Ⅰ		○	○		◎		○	
コミュニケーション技術Ⅱ		○	○		◎		○	
生活援助Ⅰ	◎	○						○
生活援助Ⅱ	◎	○						○
生活援助Ⅲ	◎	○		○				
日常生活援助Ⅰ		◎	○	○			○	
日常生活援助Ⅱ		◎	○	○			○	
日常生活援助Ⅲ	○	◎		○				○
日常生活援助Ⅳ	○	◎		○			○	
終末期支援	○		○	○			◎	
仏教の死生観			○			◎	○	
介護過程Ⅰ		◎	○	○			○	
介護過程Ⅱ		◎	○	○			○	
介護過程Ⅲ		◎	○	○	○			
介護過程Ⅳ		◎	○	○	○			
介護過程Ⅴ		◎	○	○	○			
介護総合演習Ⅰ		◎		○	○		○	
介護総合演習Ⅱ		◎		○	○		○	
介護総合演習Ⅲ		◎	○	○	○			

	1	2	3	4	5	6	7	8
介護総合演習Ⅳ		◎	○	○	○			
介護実習Ⅰ-1		◎		○	○		○	
介護実習Ⅰ-2		◎		○	○		○	
介護実習Ⅰ-3		◎	○	○	○			
介護実習Ⅱ		◎	○	○	○			
発達と老化Ⅰ	◎		○	○				
発達と老化Ⅱ	◎		○	○				
認知症の理解	◎	○					○	
認知症を持つ人の支援	○	○	◎				○	
障害の医学的基礎	◎			○			○	○
障害のある人の支援	○	○		◎			○	
こころとからだのしくみⅠ	◎			○	○			
こころとからだのしくみⅡ	◎			○				
こころとからだのしくみⅢ	◎	○		○				
こころとからだのしくみⅣ	◎			○	○		○	
医療的ケアⅠ	○	○		◎				
医療的ケアⅡ	○	○		◎				
ボランティア論Ⅰ			○			○	○	◎
ボランティア論Ⅱ				○		○	○	◎
地域福祉論Ⅰ			○		○		◎	○
地域福祉論Ⅱ				○	○	○	◎	
レクリエーション援助法Ⅰ	○	○			◎	○		
レクリエーション援助法Ⅱ	○	○			◎	○		
レクリエーション論	○		○		◎			○

2022年度 カリキュラムマップ（専攻科福祉専攻）

1. 保育士養成課程での学びを基礎として、介護福祉の基本となる理念と基礎的知識を理解できるようになる。(知識)
2. 根拠に基づく介護を行うための技術を実践することができる。(技能)
3. 高い倫理感を持ち、対象者を一人の生活者として寄り添い考えることができる。(思考力)
4. 介護実践上の課題を創造的に解決することができる。(判断力)
5. 獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、地域、社会に貢献することができる。(表現力)
6. コミュニケーションを図り、様々な専門職と協働することができる。(協働性)
7. 介護福祉士としての専門性を探求する姿勢を持ち続けることができる。(主体性)
8. 地域で暮らす人々の思いを受けとめ、地域の課題を共有することができる。(多様性)

	1	2	3	4	5	6	7	8
社会の理解	◎		○			○	○	
介護と福祉Ⅰ	◎		○				○	○
介護と福祉Ⅱ	◎		○		○		○	
介護と福祉Ⅲ			◎		○		○	○
介護と福祉Ⅳ	◎		○		○		○	
介護の基本Ⅰ	○		○			◎	○	
介護の基本Ⅱ	○		○	◎			○	
コミュニケーション	◎	○				○		○
コミュニケーション技術	○	◎				○		○
生活支援技術Ⅰ	○	◎		○				
生活支援技術Ⅱ	○	◎	○	○				
生活支援技術Ⅲ	○	◎	○	○				
生活支援技術Ⅳ	○	◎	○	○				
生活支援技術Ⅴ	○	◎	○	○				
生活支援技術Ⅵ	○	○			○			◎
生活支援技術Ⅶ	○	◎	○	○				
生活支援技術Ⅷ	○	◎	○	○				
生活支援技術Ⅸ	○	◎	○	○				
生活支援技術Ⅹ	○		◎			○	○	
介護過程Ⅰ	○		○	◎			○	
介護過程Ⅱ			◎	○				○
介護過程Ⅲ			○	◎			○	○
介護過程Ⅳ			○	○		○	◎	
介護過程Ⅴ	○			◎			○	○
介護総合演習Ⅰ			○		◎	○		○
介護総合演習Ⅱ					○	○	○	◎
介護実習			○		◎		○	○
発達と老化の理解	◎					○	○	○
認知症の理解Ⅰ	◎		○	○				○
認知症の理解Ⅱ		○	◎	○				○
障害の理解	◎		○				○	○
からだのしくみ	◎	○			○	○		
こころのしくみ	◎	○	○			○		
医療的ケア		◎	○					
人間学 A	基礎科目にて表記							
人間学 B	基礎科目にて表記							
臨床心理学（特講）	幼児教育学科にて表記							
保育心理演習	幼児教育学科にて表記							
保育心理	幼児教育学科にて表記							
保育人間学	幼児教育学科にて表記							
個別支援実習	幼児教育学科にて表記							
個別支援実習指導	幼児教育学科にて表記							